

# 社団法人 日本吹奏楽指導者協会 (JBA)

## 平成21年度 事業報告

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

### 1 吹奏楽教育に関する講習会・研修会等の開催

#### (1) 第28回吹奏楽ゼミナール

趣 旨：吹奏楽界において、現在第一線で活躍している指導者を講師に迎え、初級から上級まで各受講者に適したコースを設定し、演奏技術と音楽的表現力の向上及び音楽性の一層の充実を目的としたゼミナールである。また現在、学校教育において、カリキュラムの編成上手薄となっているバンド指導法についての勉強を補う形で、実践的に吹奏楽指導者の育成を図っている。

主 催：社団法人日本吹奏楽指導者協会

後 援：文部科学省、社団法人全日本吹奏楽連盟、神奈川県吹奏楽連盟、洗足学園音楽大学・洗足学園短期大学

コース内容：上級・中級Ⅰ・中級Ⅱ・入門・学生リーダーコースの5コース

講座内容：リハーサルクリニック・指揮法・合奏指導法・編曲法・楽器指導法・運営法・悩み相談など

講 師：秋山紀夫、井上 学、宇野浩之、岡田知之、紙谷一衛、川本統脩、崎田俊治、汐澤安彦、杉本幸一、高山直也、田中 賢、中橋愛生、野中図洋和、萩原貴子、馬場正英、藤田玄播、山岸 博、小林万里子、安達多香子、利根川正子

受 講 費：上級コース 29,400円 (JBA会員19,950円)  
(特別講座1講座 4,200円)

中級コースⅠ 29,400円 (JBA会員19,950円)

中級コースⅡ 29,400円 (JBA会員19,950円)

入門コース 29,400円 (JBA会員19,950円)

学生リーダーコース 大学生19,950円/高校生17,850円

#### [実施状況]

開 催 日：平成21年12月28日(月)～30日(水)

場 所：洗足学園音楽大学(神奈川県川崎市)

参加人数：157名 (内訳) 上級 12名、中級Ⅰ 38名、中級Ⅱ 45名、  
入門 47名、学生 15名(大学生6名、高校生9名)

結 果：今回も文部科学省を始めとして、各団体の後援も受けることができ、このゼミナールの地位・役割の重要性が改めて認められたといえる。

講座は、我が国吹奏楽界の第一線で活躍されている講師陣を迎え、受講生のニーズに合致させるよう、現場に直結する理論や実技などをわかりやすく、かつ実践的に取り入れて実施した。

特に、①モデルバンドとして例年ご協力をいただいている洗足学園音楽大学学生モデルバンド及び法政大学第二高校吹奏楽部の協力を得て、実

際にバンドをトレーニングする方法等についての講習、②片倉高校の各パートの生徒を指導する公開レッスン方式でのフルート、ホルン及び打楽器の3つの楽器指導法講座、③昨年度から新たな企画として、人気若手作曲家による自作の曲についての解説を行う講座（今回は中橋愛生氏が担当）も導入した。

157名の吹奏楽指導者が全国各地から参加し、教育現場で直面している指導上の悩みや指揮法及び合奏指導法等の技術的な問題を解決しようと、熱いまなざしで講義や実技に取り組み、会場は終始熱気にあふれ大盛況のうちに終了した。

ゼミナールの成功は、JBA関係各位及び洗足学園音楽大学の全面的なご支援によるところであり、改めて心から感謝致します。

## (2) 指揮法講習会

趣 旨：斎藤秀雄著『指揮法教程』を主教材として、学校、企業、あるいは一般社会で吹奏楽団を指導しているバンドディレクターを対象とした講習会である。指揮の理論と実習を柱とした内容で、入門から高度な表現に至る過程を体系的かつ実践的に行う講習会として評価されている。

主 催：社団法人日本吹奏楽指導者協会

協 力：財団法人日本音楽財団

講 師：川本統脩、紙谷一衛、井村誠貴、小林万里子、永野理佳（延9名）

[開催状況]

開催日	場 所	受講者数
①平成21年11月3日	東北学院中学高等学校（宮城県仙台市）	23名
②平成21年11月14日	名古屋芸術大学（愛知県北名古屋市）	16名
③平成21年11月23日	宇都宮市文化会館（栃木県宇都宮市）	20名
④平成21年11月28日	遺愛中学校・高等学校（北海道函館市）	26名
⑤平成22年1月23日	ルミエールホール（大阪府門真市）	25名
⑥平成22年2月6日	陸上自衛隊西部方面音楽隊（熊本県熊本市）	22名
		受講者合計 132名
		参加モデルバンド 250名

内 容：1. 吹奏楽指導者として必要な指揮法について、斎藤秀雄著の「指揮法教程」を主材とするとともに、吹奏楽曲を題材として指揮の講義と実技レッスンを行った。

2. レッスンは、ピアノ伴奏者又はモデルバンドを指揮する方式で、実践的かつ直接的に講習した。

3. 各受講者が本講習会での成果をもって地域の吹奏楽指導者にそのノウハウを伝達出来るよう指導法についても講習した。

4. ゼミナール形式でのディスカッションによる指揮指導法について質疑応答を行った。

成 果：指揮法の基本及び応用について、我が国第一線で活躍する指揮者を講師として派遣し、ピアノ伴奏又はモデルバンドを指揮し、実践に役立つ指揮法を重視した講習会により、極めて大きな教育成果が得られた。特に、徹底した基本指揮法の習得と各種の楽曲を用いてモデルバンドを指揮する実技は、今まで手慣れたバンドを指揮・指導してきた受講者にとっては貴重な体験であり、講師の的確な指導のもと、多大の成果を得られた。

1. 独学が困難な指揮法について、参加者が気軽に質の高い講習を受けることにより、幅広く指導者を育成する講習が実施できた。
2. 地方における指揮法の指導者不足を補い、我が国の第一線で活躍する指揮者による個別指導を行うことにより、個人の欠点の修正と正しい指揮法を普及することができた。
3. クラシックの名曲及び各種の吹奏楽曲を教材としてモデルバンド又はピアノ伴奏を指揮し、実践的なバンド指導法について体験することにより、指揮者と演奏者のコミュニケーションの取り方、音楽表現の伝え方等を体得させることができた。

なお、参加者からは、「普段はなかなか受けることの出来ない著名な指揮者の先生から直接指導を受けることが出来て感激した」、「もっと多くの機会を設けて欲しい」、「今後の現場指導に生かしたい」などの意見が多く寄せられるとともに、財団法人日本音楽財団が本講習会を助成してくださることに對し、参加者からは深い感謝の声が寄せられた。

## 2 吹奏楽教育に資する指導者の資格認定及び吹奏楽器演奏技能の検定

### (1) 第24回吹奏楽指導者資格認定試験

目 的：吹奏楽指導者の知識及び技能を客観的に評価することにより、吹奏楽指導者としての社会的資格を認定するとともに、指導者がさらに向上心をもって自己啓発に努めるように企画されている。認定資格を1級から3級に区分し、筆記試験及び実技試験により判定、合格者にはJBAから認定証を交付する。

主 催：社団法人日本吹奏楽指導者協会

後 援：洗足学園音楽大学・洗足学園短期大学

協 力：洗足学園音楽大学学生モデルバンド

受験内容：理論筆記試験・編曲作品審査・合奏実技試験・指揮実技試験・小論文

\* 1級及び2級認定試験は、全5科目を受験して総合合格した者についてJBAが認定する。毎年1科目ずつの受験も可能で、最終的に総合合格した時点で認定する。3級認定は、理論筆記試験、指揮実技試験及び小論文のみ。

審 査 員：秋山紀夫、藤田玄播、野中凶洋和、川本統脩、井上 学、阿部勘一

受 験 料：1級～3級毎に各受験科目別に1,050円～10,500円

開催日：平成21年12月30日（水）

場 所：洗足学園音楽大学（神奈川県川崎市）

[結 果]

受験者数：合計 40名（内訳：1級 1名、2級 16名、3級 23名）

合格者数：合計 15名（内訳：1級 1名、2級 3名、3級 11名）

合格者氏名：＜1級＞ 山戸 進

＜2級＞ 大久保潤一郎、宮口弘明、兼城 裕

＜3級＞ 五十嵐史生、川田宏美、佐々木康雄、杉山 俊、眞壁香代、  
石谷 和、福田健泰、塚脇綾子、堀口将英、藤本芳樹、  
岩柳好美

## （2）吹奏楽器（管・打楽器）演奏技能検定

趣旨と目的：主として中・高校生を対象とした吹奏楽器の演奏技能検定で、1級から6級（初級）まであり、各々の級に応じて実技（課題曲）と学科（楽典）の試験を行う。さらに、この検定は受験者自ら目標を決めて課題に挑戦することにより自分を鍛え、音楽の知識や技術を身につけて、社会人となっても音楽を心の糧として豊かな人生を送れるように企画されたものである。しかし、今年度は検定方法の見直しを図るため、昨年度に引き続きこの事業を休止とした。

## 3 吹奏楽教育に関する国際交流の実施

◇第14回WASBE（世界吹奏楽会議）への参加

趣 旨：WASBEはユネスコからも認められている吹奏楽の世界的組織である。会議では吹奏楽に関する研究発表・講演・コンサート等が企画され、吹奏楽の世界的普及とレベル向上及び吹奏楽に携わる人々の人的交流を図っている。この会議は1年おきに開催されている。

開催時期：平成21年7月5日～11日（7日間）

開催地：アメリカ（オハイオ州）

会 場：シンシナチ音楽院

参加者：秋山紀夫、斉藤好司、玄間 博、浅木森友彦

日本からのバンド出場：フィルハーモニック・ウィンズ大阪

参加演奏団体：米国海兵隊軍楽隊、北テキサス大学ウインド・アンサンブル、  
シンシナチ音楽大学、他

今後の予定等：2011年度開催地 台湾嘉義市

時 期 2011年7月3日～9日

2013年度開催地 ハンガリー・ペーチェ

#### 4 吹奏楽生涯学習及び社会教育事業の推進

##### ◇社会人バンドフォーラム

趣 旨：21世紀は社会人バンドが吹奏楽界における演奏活動の中核となると考えられており、日本各地で活動している社会人バンドの育成・レベル向上を目標に企画されたフォーラムである。今年度はJBA通常総会の当日に、同じ会場で開催した。

内 容：演題「吹奏楽における作曲的編成論」

講演 東京音楽大学非常勤講師・作曲家 中橋愛生 氏

主 催：社団法人日本吹奏楽指導者協会

開 催 日：平成21年6月29日（月）

場 所：フルーツパーク富士屋ホテル（山梨県山梨市）

参加人数：JBA会員中総会出席者約60名

#### 5 吹奏楽教育に関する出版物の刊行

##### (1) 『吹奏楽紀要』（論文集）第15号の発刊

趣 旨：協会会員相互の研さんのため、また、吹奏楽に関心を持つ社会人、あるいは後輩育成のために、会員各自の考えや経験・調査研究したことを研究論文集としてまとめて年1回発刊する。今年度は6月に第15号を発刊した。

内 容：「ジョン・ウィリアム・フェントンを追って」

著者：秋山紀夫

「吹奏楽の編成の変遷」

著者：中橋愛生

##### (2) 機関誌『ウインド・フォーラム』の発行

趣 旨：協会の会員同志の情報交換及び活動計画とその状況報告等、年3回程度機関誌を発行して、協会活動の活性化と会員の意識高揚を図る。今年度は第90号（平成21年5月）及び第91号（平成21年9月）の2回発行した。

内 容：第90号＝会長あいさつ／各事業報告／平成21年度総会案内／会員追悼文ほか

第91号＝会長あいさつ／平成21年度総会報告／平成20年度収支報告・監査報告／理事会・支部長会議報告／公益社団法人改革に伴い社団法人日本吹奏楽指導者協会が目指す新しい方向について／次期役員を選考について／平成21年度各支部総会報告／各事業報告・計画／会員追悼文／図書紹介／平成22年度総会案内ほか

## 6 その他この法人の目的を達成する為に必要な事業

### (1) 日本吹奏楽発祥百四十年記念演奏会

趣 旨：明治2年に横浜の本牧山妙香寺において、薩摩藩士32名に対しイギリス陸軍軍楽隊長J.W.フェントンが指導したのが日本吹奏楽の発祥である。平成元年9月15日、日本吹奏楽指導者協会が中心となって、吹奏楽界から広く浄財を集め、その地に建立したのが「日本吹奏楽発祥の地」の碑である。これを記念して当協会が主催して、この演奏会を毎年実施している。

開 催 日：平成21年10月12日（祝・月）

場 所：本牧山 妙香寺（神奈川県横浜市）

主 催：社団法人日本吹奏楽指導者協会

主 管：社団法人日本吹奏楽指導者協会 東京神奈川部会

共 催：神奈川県吹奏楽連盟、本牧山妙香寺

後 援：神奈川県、神奈川県教育委員会、横浜市市民活力推進局、横浜商工会議所、財団法人音楽文化創造、財団法人横浜開港150周年協会、朝日新聞横浜総局、産経新聞横浜総局、日刊工業新聞社横浜総局、日本経済新聞社横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、東京新聞横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK横浜放送局、テレビ神奈川

参 加：出演者 海上自衛隊東京音楽隊 40名  
日本大学高等学校・中学校吹奏楽部 60名  
参加者 JBA役員・会員 20名  
観 客 約300名 合計 420名

実施状況：第20回の節目を迎えた昨年の記念演奏会には、秋山名誉会長の永年の調査とご努力のおかげで、J.W.フェントン氏のご子孫にあたるツェーラーご夫妻が、この日に合わせて来日してくださいました。

今年は、日本に吹奏楽が発祥して140年という節目の年でしたが、出演者に海上自衛隊東京音楽隊（熊崎博幸 隊長）をお迎えし、式典と演奏会をやって頂きました。更には、日本大学高等学校・中学校吹奏楽部の出演もあって、とても素晴らしい演奏会ができました。

そしてJBA会員の参加は、昨年ほどではなかったものの、秋山名誉会長、藤田前会長、遠山会長にもご参加頂き、有意義な記念演奏会となりました。

### (2) 第14回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストの開催

目 的：管打楽器の演奏に携わる青少年の資質及び技術の向上を図り、併せて吹奏楽界全般の技術向上意欲を啓蒙することを目的とする。

[ソロコンテスト本選開催状況]

開 催 日：平成22年3月26日（金）午前9時30分～午後6時

中学生部門 午前9時30分～ / 高校生部門 午後2時～

場 所：アクトシティ浜松 中ホール（静岡県浜松市）

主 催：浜松市、(財)浜松市文化振興財団、日本高等学校吹奏楽連盟、  
(財)日本自治総合センター

共 催：浜松市教育委員会、社団法人日本吹奏楽指導者協会 等 5団体

後 援：文化庁、静岡県 ほか

出 場 者：参加資格は社団法人日本吹奏楽指導者協会の各支部長が参加を適当と認  
め推薦した中学生及び高校生

審 査 員：委員長 秋山 紀夫（浜松市音楽文化名誉顧問、JBA名誉会長）  
委 員 赤坂 達三（クラリネット奏者）  
同 関山 幸弘（NHK交響楽団主席トランペット奏者）  
同 彦坂眞一郎（トルヴェール・クワルテット サクソフォーン奏者）  
同 外圍祥一郎（ユーフォニアム奏者）

開催結果：出場者 53名（欠場1）  
(内訳)中学生の部 25名 / 高校生の部 28名（欠場1）

入 賞 者：＜中学生部門＞（参加25名）  
第1位及び特別賞  
玉井 美有 関東甲信越地区（千葉県）柏市立田中中学校2年  
アルトサクソフォーン  
第2位 山田 幹人 九州地区（熊本県）天草市立本渡中学校2年  
トランペット  
第3位 野木 青依 東北地区（宮城県）仙台市立八軒中学校3年  
マリンバ

＜高校生部門＞（参加27名）  
第1位 芝原 辰徳 東北地区（宮城県）宮城県仙台西高等学校3年  
チューバ  
第2位 桑原 啓多 北海道地区（北海道）函館市立函館高等学校2年  
ユーフォニアム  
第3位 佐藤 真美 北海道地区（北海道）北海道遠軽高等学校2年  
チューバ

入賞者コンサート：＜中学生部門＞  
竹田 天 北海道地区（北海道）札幌市立柏中学校3年  
ユーフォニアム

＜高校生部門＞  
後藤 紀子 中国地区（岡山県）三重県立白子高等学校3年  
チューバ

評価及び今後：第14回を迎えた今大会は、全国大会各支部代表としての自信と音  
楽性のある表現が感じられた。中学生の部3位までの入賞者は木管  
楽器、金管楽器、打楽器と全部門から、審査員特別賞に玉井美有さ  
んが選ばれた。また高校生の部は金管楽器、打楽器の入賞者であっ

た。高校生の部2名（金管楽器）の入賞者は北海道代表であった。  
 観席もほぼ満席となり、両親や学校仲間の応援に会場は素晴らしい  
 雰囲気の中でコンテストが進められた。  
 来年度は15周年の節目を迎えるが、さらなる個性・音楽表現があ  
 る演奏を期待したい。

#### 全国大会への出場者名（演奏順）

##### 【中学生部門】

1.	北村 結希	フルート	三重県	尾鷲市立尾鷲中学校	3年
2.	小林 真実	フルート	静岡県	静岡市立観山中学校	3年
3.	坂口 舞依	フルート	石川県	加賀市立東和中学校	2年
4.	藪野 結香	フルート	石川県	白山市立北辰中学校	3年
5.	市藤さくら	オーボエ	静岡県	浜松市立江南中学校	3年
6.	笹倉 美幸	オーボエ	大阪府	プール学院中学校	3年
7.	笹本 夏加	クラリネット	北海道	釧路市立富原中学校	2年
8.	塩野 奈々	クラリネット	北海道	遠軽町立遠軽中学校	2年
9.	澁谷 夏佳	クラリネット	宮城県	仙台市立北仙台中学校	3年
10.	瀧本 千晶	クラリネット	栃木県	宇都宮市立陽東中学校	1年
11.	玉井 美帆	アルトサクソフォン	愛媛県	今治市立南中学校	2年
12.	松崎州之亮	アルトサクソフォン	愛媛県	砥部町立砥部中学校	3年
13.	山本真望子	アルトサクソフォン	愛媛県	松山市立三津浜中学校	3年
14.	橋口 夏鈴	アルトサクソフォン	鹿児島県	霧島市立舞鶴中学校	2年
15.	向山 周作	アルトサクソフォン	宮城県	仙台市立中山中学校	3年
16.	玉井 美有	アルトサクソフォン	千葉県	柏市立田中中学校	2年
17.	宮越 敦士	アルトサクソフォン	埼玉県	新座市立第六中学校	2年
18.	石田侑希帆	アルトサクソフォン	大阪府	大阪市立放出中学校	3年
19.	吉岡 克倫	テナーサクソフォン	大阪府	東海大学附属仰星高等学校中等部	3年
20.	琴原 成啓	トランペット	熊本県	天草市立本渡中学校	2年
21.	飛田 遥香	トランペット	茨城県	ひたちなか市立勝田第三中学校	1年
22.	山田 幹人	トランペット	熊本県	天草市立本渡中学校	2年
23.	森井 明希	ホルン	静岡県	静岡市立観山中学校	3年
24.	木村 駿佑	ユーフォニアム	北海道	北斗市立上磯中学校	2年
25.	野木 青依	マリンバ	宮城県	仙台市立八軒中学校	3年



【高校生部門】

1.	鈴木 菜月	フルート	茨城県	茨城県立水戸第一高等学校	1年
2.	田島 史織	フルート	群馬県	早稲田大学本庄高等学院	2年
3.	井畑 志保	フルート	北海道	北海道滝川高等学校	2年
4.	白川 峻	フルート	香川県	香川県立観音寺第一高等学校	2年
5.	安田 佳代	フルート	愛媛県	済美高等学校	2年
6.	畦地 志保	フルート	石川県	石川県立金沢辰巳丘高等学校	2年
7.	伊藤 樹里	フルート	静岡県	浜松学芸高等学校	2年
8.	荒木 奏美	オーボエ	茨城県	茨城県立日立第一高等学校	1年
9.	久保 暖	オーボエ	神奈川県	横浜市立桜丘高等学校	2年
10.	佐藤 貴洋	オーボエ	宮城県	聖和学園高等学校	2年
11.	石井 智章	オーボエ	兵庫県	大阪桐蔭高等学校	1年
12.	菅 眸見	クラリネット	愛媛県	愛媛県立北条高等学校	3年
13.	池田 明穂	クラリネット	静岡県	浜松学芸高等学校	2年
14.	東田 尚子	バスーン	広島県	広島県立広島皆実高等学校	2年
15.	大内 秀介	バスーン	京都府	洛南高等学校	1年
16.	田嶋由布子	アルトサクソフォン	秋田県	秋田県立湯沢高等学校	2年
17.	坂光 智史	アルトサクソフォン	熊本県	熊本県立第二高等学校	2年
18.	米永 聖菜	アルトサクソフォン	鹿児島県	鹿児島県立鹿屋高等学校	2年
19.	伊藤 由華	バリトンサクソフォン	静岡県	浜松海の星高等学校	3年
20.	松田 優太	トランペット	広島県	修道高等学校	3年
21.	小賀真利子	トランペット	石川県	小松市立高等学校	1年
22.	本田 康平	トロンボーン	熊本県	熊本市立必由館高等学校	3年
23.	桑原 啓多	ユーフォニアム	北海道	函館市立函館高等学校	2年
24.	藤井 誠大	ユーフォニアム	山口県	江の川学園石見智翠館高等学校	3年
25.	芝原 辰徳	テューバ	宮城県	宮城県仙台西高等学校	3年
26.	佐藤 真美	テューバ	北海道	北海道遠軽高等学校	2年
27.	西 愛美	マリンバ	兵庫県	尼崎市立尼崎高等学校	2年
28.	柿沼 諒	マリンバ	三重県	三重県立尾鷲高等学校	3年

[ソロコンテスト各支部予選実施状況]

概要：各支部の特性により、それぞれ選抜方法は異なっており、他の団体の実施するコンテストから上位者を推薦する場合もある。推薦者選抜のための各支部実施状況は次のとおり。

支部名	実施状況
北海道支部	<p>第46回 北海道管楽器個人コンクール                      (北海道吹奏楽連盟/朝日新聞社主催, (社)日本吹奏楽指導者協会北海道支部後援)</p> <p>開催日 平成22年2月13日(土)                      会場 札幌コンサートホールキタラ</p>
東北支部	<p>第18回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト東北大会                      開催日 平成22年2月7日(日)                      会場 仙台市広瀬北文化センター</p>
関東甲信越支部	<p>第8回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト                      開催日 平成22年2月28日(日)                      会場 上野学園大学</p>
東海支部	<p>第14回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト東海支部代表選考会                      開催日 平成22年2月20日(土)                      会場 名古屋芸術大学音楽学部東キャンパス</p>
北陸支部	<p>第26回管楽器ソロコンテスト                      (金沢市「音楽コンクール」実行委員会/(社)日本吹奏楽指導者協会石川県部会主催)</p> <p>開催日 平成21年11月22日(日)                      会場 アートシアターいしかわ</p>
関西支部	<p>第14回関西中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト                      開催日 平成22年2月21日(日)                      会場 大阪音楽大学ミレニアムホール</p>
中国支部	<p>第26回中国ユース音楽コンクール(中国新聞社主催)                      開催日 平成21年10月17日(土)・18日(日)                      会場 中国新聞ビル7階ホール</p>
四国支部	<p>全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト第12回四国支部大会                      開催日 平成22年2月27日(土)                      会場 松山東雲女子大学・短期大学</p>
九州支部	<p>第6回JBAソロコンテスト九州大会                      開催日 平成22年2月21日(日)                      会場 宇城市松橋総合体育文化センター(ウイングまっばせ)</p>

### (3) 吹奏楽楽曲開発（下谷奨励賞）

趣 旨：昭和50年度より毎年、JBA顧問でもある株式会社千修代表取締役会長 下谷隆之氏のご厚意により実施してきた吹奏楽作品・新曲「下谷賞」は、平成19年度から作品募集による審査を取り止め、「“21世紀の吹奏楽”実行委員会」と連携し、同委員会が主催する“響宴”に選ばれた作品の中から、優れた作品に対して「下谷奨励賞」を贈っている。昨年度から最終選考の候補曲のうち入選以外は佳作とし、表彰状を贈呈することとした。

選考方法：平成21年3月15日に開催された第12回“響宴”に選ばれて演奏された中から4作品（うち2作品を下谷奨励賞、他2作品を佳作）を選考し、受賞作品の発表は4月中旬に発表した。

表 彰：平成21年度JBA総会時に表彰、賞金各10万円を贈呈した。  
（ただし、佳作作品は表彰のみ）

審 査 員：秋山紀夫・野中図洋和・小澤俊朗

結 果：【下谷奨励賞】

① 関下の桜樹－吹奏楽のための（作曲者 中橋 愛生）

② “The Courage”－真の勇氣とは（作曲者 小長谷宗一）

【佳作】

① 吹奏楽のための「賛歌」～悠久の時を超えて～（作曲者 延原 正生）

② ファンタズマ・ルナーレ：月光の中の幻影（作曲者 後藤 洋）

### (4) 吹奏楽学会の開催

趣 旨：毎年総会開催時に、会員の研さんに資するため「吹奏楽学会」として、講演会あるいは研究発表会を開催している。

内 容：スクールバンド リハーサルクリニック

講師 JBA常務理事・神奈川大学吹奏楽部音楽監督 小澤俊朗 氏  
モデルバンド 山梨県立巨摩高等学校吹奏楽部

主 催：社団法人日本吹奏楽指導者協会

開 催 日：平成21年6月28日（日）

場 所：フルーツパーク富士屋ホテル（山梨県山梨市）

参 加 者：JBA会員中総会出席者約60名

### (5) 後援・協賛事業

ある演奏会、研修会等の事業に対し、主催者より後援または協賛の申請があった場合、それが吹奏楽の発展につながる有意義な事業であると認めるときはこれを認可している。なお、平成21年度に後援を認可した事業は次のとおり。

- ①第56回定期演奏会  
 主 催 東京吹奏楽団  
 日 時 平成21年4月3日(木)  
 場 所 すみだトリフォニーホール(東京都墨田区)
- ②作曲の会「shining」第1回作品発表会  
 主 催 作曲の会「shining」  
 日 時 平成21年5月5日(祝・火)  
 場 所 北区滝野川会館大ホール(東京都北区)
- ③2009年度日本吹奏楽指導者クリニック  
 主 催 日本バンドクリニック委員会  
 日 時 平成21年5月15日(金)～17日(日)  
 場 所 アクトシティ浜松(静岡県浜松市)
- ④横浜開港祭 チャリティー吹奏楽コンサート「ザブラスクルーズ2009」  
 主 催 横浜開港祭 ザブラスクルーズ実行委員会  
 日 時 平成21年6月7日(日)  
 場 所 横浜みなとみらい大ホール(神奈川県横浜市)
- ⑤国立音楽大学吹奏楽ワークショップ  
 主 催 国立音楽大学  
 日 時 平成21年6月20日(土)～21日(日)  
 場 所 国立音楽大学(東京都立川市)
- ⑥2009 マーチングバンド・ダトントワーリング インターナショナル コンペティション(中止)  
 主 催 2009 マーチングバンド・バトントワーリング インターナショナル コンペティション 組織委員会  
 日 時 平成21年7月26日(日)  
 場 所 さいたまスーパーアリーナ(埼玉県さいたま市)
- ⑦東北ブラスキャンプ09  
 主 催 東北ブラスキャンプ09実行委員会  
 日 時 平成21年9月21日(月)～23日(水)  
 場 所 岩手県立県北青少年の家(岩手県二戸市)
- ⑧第11回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜  
 主 催 日本高等学校吹奏楽連盟  
 日 時 平成21年11月14日(土)～15日(日)  
 場 所 本大会：パシフィコ横浜 国立大ホール(神奈川県横浜市)  
 プロムナードコンサート：クイーンズスクエア内 クイーンズサークル  
 (神奈川県横浜市)

⑨生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク全国シンポジウム

主 催 財団法人音楽文化創造

日 時 平成21年11月23日(祝・月)

場 所 東邦音楽大学 文京キャンパス(東京都文京区)

⑩新春ファミリーコンサート

主 催 東関東吹奏楽団

日 時 平成22年1月17日(日)

場 所 我孫子市けやきプラザふれあいホール(千葉県我孫子市)

⑪ヤマハ吹奏楽団 創立50周年記念特別演奏会

主 催 ヤマハ株式会社 ヤマハ吹奏楽団

日 時 平成22年1月31日(日)

場 所 サントリー 大ホール(東京都港区)

(6) JBA人材バンク

社団法人日本吹奏楽指導者協会は、吹奏楽指導者である会員が、各自の専門分野において知識と経験を生かして青少年の音楽教育、情操教育のため力を尽くし、次世代の指導者の識能向上に資するとともに、生涯にわたって音楽を愛好する生涯学習の基盤を醸成するため、JBA人材バンクを設置している。なお、推薦指導者名簿は2年に1回更新することになっており、昨年度発行したため今年度は発行しなかった。

(7) バンドの日

一般化した「バンド」(楽器演奏)文化を社会に広く正しく認知させることにより、将来への基盤を確かなものにするためにJBAが制定した「バンドの日(11月3日)」に関する啓発活動を行っている。

以 上